

# 予期せぬ妊娠に対する相談の実際

## ～東村山市での取り組み～

東京都東村山市子ども家庭部子ども保健・給付課  
 保健師 大熊 美穂  
 横山 祐美



### 地域の概要

- 総人口 151,575人 (令和3年1月1日現在)
- 世帯数 74,210世帯 (令和3年1月1日現在)
- 老年人口 26.9% (令和3年1月1日現在)
- 令和2年出生数 944人 (令和2年12月31日現在)
- 合計特殊出生率 1.2 (令和1年)



【面積】 17.14km<sup>2</sup>

東西5.676km

南北5.240km

【地勢】 当市は、東京都の北西部に位置しており、北は埼玉県に隣接している。

東京の副都心である新宿や池袋までは、電車で30分の距離というアクセスに恵まれたつつも、自然に囲まれた緑豊かな都市である。また国宝として正福寺地蔵堂が指定されている。

出生数については、平成23年の1,200人台に対して、令和2年は944人と少子高齢化が進んでいる。

### 当市の母子健康手帳の交付

#### 【経過】

- 30年以上前から保健師が面接による母子健康手帳の交付を行い、妊婦自身が妊娠をきっかけに、家族全体の健康について考える機会となるよう、健康相談・教育の場としても重要視してきた。
- 市民の利便性を考慮し、保健師が不在の地域サービス窓口(市内9か所)でも母子健康手帳の交付を開始したことで、それまでは全数面接を行っていたところ、妊娠期の面接率が低下していった。(平成27年度妊婦面接率79.8%)
- 平成27年度に嘱託助産師を採用し、妊婦面接やその後のフォローの強化を図った。
- 平成28年度より、東京都の事業である「出産・子育て応援事業(ゆりかご・とうきょう事業)注」を活用し、「ゆりかご・ひがしむらやま事業」を開始し、「子育て応援ギフト」を手渡しすることで、妊婦面接率の向上を目指した。(令和2年度 妊婦面接率97.7%)

#### 専任の助産師と保健師を母子保健コーディネーター(※)と位置づける

嘱託助産師1名、嘱託保健師1名  
 (※母子健康手帳の交付に始まり、妊娠や出産、子育てについて不安なことや困りごとの相談を受けるとともに、必要なサービスを提案する。)

同フロアに母子保健担当の保健師7名(内訳:課長補佐1名、保健師6名)

○ 従来より「子育て世代包括支援センター」としての機能は果たしていたが、更なる支援の充実を図ることに伴い、令和元年10月より改めて「子育て世代包括支援センター」と名称を名乗り、一人一人に寄り添った支援に取り組んでいる。

### ゆりかご・ひがしむらやま事業(利用者支援事業母子保健型)(平成28年4月～)

#### ○ 妊娠届出時における専門職(助産師・保健師=母子保健コーディネーター)による全数面接

- ・ 専門職と「妊婦面接」をすることで、お祝い品(こども商品券)を贈呈(①)。
- ・ 妊娠から出産までの計画を書き込むことのできるガイド冊子を作成し、専門職とともに個別のプランを作成(②)。
- ・ 土曜日の面接日(月1回)を設定。



#### ○ プライバシーの保たれた相談室の開設(③)。

#### ○ 「妊産婦電話相談」の開設(平成29年～)

#### ○ 地域連携

- ・ 利用者支援事業(基本型)実施事業者との定例会議。また市内のエリアネットワーク会議(各地域の子育て関係者による円卓会議)や子育てひろば会議に参加し、連携の促進を図っている。



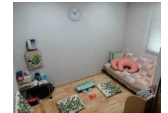
#### ○ 訪問型産前・産後サポート事業「ゆりかご訪問」(平成29年5月～)

- ・ 助産師による複数回の訪問により、育児手技の向上を図ることで、産後うつや孤立化等の様々なリスクの軽減。(最大4回実施。)

#### ○ 「妊娠SOSひがしむらやま」として電話とメール相談を開始(平成30年～)

#### ○ オンライン妊婦面接開始

- ・ 令和3年度より新型コロナウイルス感染症の流行禍で妊婦面接に来所することが不安な方に対し、オンラインによる妊婦面接を開始。

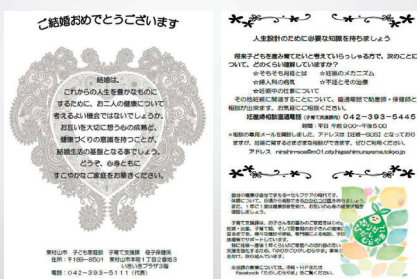


#### ○ その他

- ・ ピアサポート事業「ゆりかご多胎児の会」(令和2年度までは集団相談型産前・産後サポート事業)。
- ・ 地域への出張相談会「ゆりかごキャラバン」、母乳相談(個別型・集団型)、エンジョイ子育て講座

### 「妊産婦電話相談」の周知

- ・ ホームページ、ポスター掲示(公共機関や駅等)、入籍した方への「結婚おめでとう」リーフレットへの掲載等



ゆりかご・ひがしむらやま  
 ポスター

「結婚おめでとう」リーフレット

### 事例

#### 平成29年度「妊産婦直通電話」に入電あり。

「妊娠したと思う。産むか迷っている。パートナーには話していない」とのことだった。保健師は「パートナー以外に相談できる人がいますか」「現在の体調はいかがですか」「まずは病院受診をして妊娠の有無を確認しませんか」と聞いたところ、「相談できる人はいない」「体調も眠れず良くない」と話し、病院受診については迷っている様子だった。次の相談を約束しようと「体調も心配なのでまたお電話いただけますか」と伝えると、「何かあったら電話します」と話し、それ以降入電はなし。

#### このことから

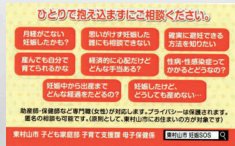
- 誰にも言えないから「匿名で相談できる場所を選んだ」ということに対する心配りに欠けていたのではないか。

- 中絶を選択するのであれば早期の方がよいという専門職側の「決断を急ぐ」意識が働いていたのではないか。

## 妊娠SOSひがしむらやま～これまでの取り組み～

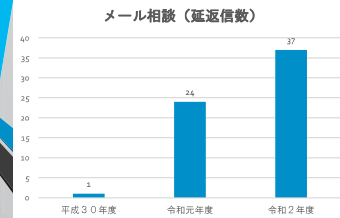
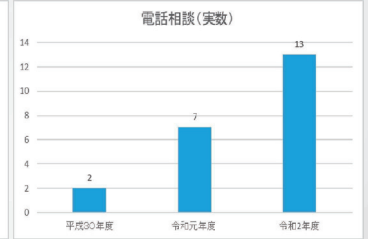
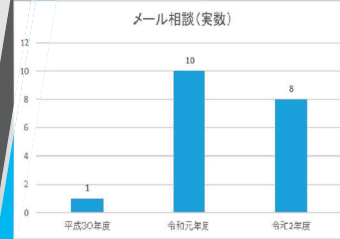
- 平成30年度よりゆりかご・ひがしむらやま事業で開設した妊産婦直通電話を、「妊娠SOSひがしむらやま」の電話としても活用。
- 「妊娠SOSひがしむらやま」専用のメールアドレスを開設。
- 市薬剤師会や市内ドラッグストアの協力等を得た周知・広報
  - ・市内調剤薬局（41か所）、市内ドラッグストア（21か所）で、妊娠検査薬陳列付近に設置
  - ・公共施設（12か所）の女子トイレに設置

【名刺大のカード】



薬局への設置の様子  
平成30年11月19日設置

## ～これまでの実績～



### メール相談

1人の方とやり取りする回数の平均が令和元年度は約2回に対し、令和2年度は約4回と増加している。匿名で相談できるので、利用しやすさがうかがえる。

### 電話相談

1回で終了となるケースが多い。令和2年度は前年度の倍となっている。

## 相談の実際①

実績：平成30年度電話相談2件、メール相談1件

事例1：市内在住大学生男子より、彼女の月経が遅れていると連絡あり。

事例2：市内在住15歳男子。彼女（14歳）と4日前に性行為したが、妊娠が気になっている。中学生でも妊娠するのか。1回目はコンドームをつけたが、2回目、3回目はつけていない。彼女の月経については分からない。

事例3：2.5週で妊娠に気づいた。これからの定期健診やお金の給付等金銭面について知りたい。→何回かメールのやり取りをし、地区担当保健師にて継続支援。

妊娠SOS電話相談票

9

## 相談の実際②

実績：令和元年度電話相談7件、メール相談10件

事例1：妊娠16週19歳の娘の母。中絶を希望している。1か所病院に問い合わせたが断られてしまい、中絶できる病院を知りたい。

事例2：妊娠10週前後の妊婦の知人と名乗る年配の男性。非課税世帯。出産もしくは中絶の費用の補助があるか知りたい。

事例3：妊娠5か月。夜中に不安になり眠れない。

→2回メールでやり取りをし、その後電話相談につながり、地区担当保健師にて継続支援。

事例4：妊娠中で、当市に里帰り予定。出産費用についての相談。

事例5：妊娠7週。3人の子供がいる。思いがけない妊娠で戸惑っている。

→5回メールでやり取りし、子どもたちには聞かれたくないとのこと時間を調整し、電話相談につながり、その後出産を決断。

10

## 相談の実際③

実績：令和2年度電話相談13件、メール相談8件

事例1：妊娠していないか心配。

→妊娠検査薬と病院受診を勧めた。

事例2：生理が1週間遅れている。妊娠しているか不安。

→妊娠検査薬の使用を勧めた。結果は陰性で生理もきた。確実に避妊することと避妊方法を説明した。（計8回）

事例3：1周期で2人の男性と性行為をした。父親はどちらの方が可能性が高いか

→胎児の父親を特定することは出来ない旨伝えた。中絶できない期間のため産むことに決めた。サポートしていきたいとメールするが、その後返信なし。（計2回）

事例4：生理が遅れていて不安。

→妊娠が判明。中絶を決断。（計7回）

事例5：中絶か特別養子縁組で悩んでいる。

→特別養子縁組を決断。出産から退院までの間の不安な気持ちに寄り添った。（計15回）

11

## 今後の課題

### 専門職側のスキルの向上

相談者も「どうしたいか」もまだ分からない中で、信頼を得てニーズを引き出すスキルが求められる。幅広い知識の習得や傾聴のスキル向上を課題として、研修への参加やケースカンファレンス等を行ってスキルアップを図っている。（特に受胎調節実地指導員の資格習得のための研修は大変参考になっている。）

### 相談者の自己決定の見守りと確認

相談が継続したケースのやり取りを参考にしながら、相手の状況や気持ちを確認しつつ、相談者が不安な気持ちのままメールが終結することのないよう心掛けてきた。しかし、なかには返信がなく終了となったケースもあった。今後も成功事例を参考にしながら、できるだけ自己決定の確認とそのことに伴う気持ちの揺れに対して、寄り添った支援を行っていきたい。

12

ご清聴ありがとうございました。



13